

市民一人ひとりの生涯学習を支援する季刊情報誌

心みて、参加して！

ゆとろぎ通信

発行：羽村市教育委員会
企画：羽村市生涯学習センターゆとろぎ
編集：ゆとろぎ協働事業運営市民の会

Vol. 1
2008年5月1日発行
(通巻9号)

季刊ゆとろぎ改題
新装版

スポーツで生涯学習！

連載
私の生涯学習
第5回

羽村市体育指導委員協議会会長

にいじまふみひこ
新島二三彦さん
(p.2)

■初夏のゆとろぎ
イベントガイド
(p.6～7)

古今亭菊之丞師匠（真打）



ゆとろぎ小ホールが
演芸場に早変わり！

特集

回を重ねるたびに前売り券完売が続出するほどの人気ぶり。千客万来、客席爆笑、落語ブームの再来か？



柳家右太楼さん（二つ目）



柳家喬の字さん（二つ目）

羽村ゆとろぎ客席

スポーツで生涯学習！

連載
私の生涯学習
第5回

市民が企画運営するスポーツクラブ
「はむすぽ」の設立に奔走する

にいじまふみひこ
新島二三彦さん
(56歳)



新島二三彦さん サラリーマンのかたわら羽村市体育指導委員として市民スポーツの振興に活躍。仕事も余暇も上手に楽しんでいる。インタビュー中は、まさに「スポーツマンらしさ」を存分に感じさせた。1952（昭和27）年生まれ。

「はむすぽ」ってなんですか？
この6月にいよいよ始動する「はむすぽ」総合型スポーツクラブの名前です。皆さんに親しみを持って呼んでもらえる愛称として考えました。
子どもから高齢者まで、地域の誰もが、年齢・興味・関心・技術・技能レベルに応じたさまざまな種目で楽しくスポーツに親しむことができます。

この6月、西多摩で初めての総合型地域スポーツクラブ「はむすぽ」がスタートする。総合型地域スポーツクラブとは国のスポーツ振興基本計画に基づいて、生涯スポーツ社会実現を目標に平成22年度までに全国の市区町村に少なくとも一つは育成することとされ、民間スポーツクラブとの大きな違いは、地域住民がその企画運営に主体的に携わること。
テニスやスキーを愛好し、ひよんなことから体育指導委員となり、「はむすぽ」設立準備委員会の副会長として多忙な新島二三彦さんにお話を聞いた。

（取材・江久保千英／写真・平田栄二）

会員は、「はむすぽ」が企画するさまざまなプログラムに参加して体を動かし、汗をかくだけでなく、運営そのものにも参画することが出来ます。こんなメニューがあったらいい、と自ら提案してプログラムを組んだり、スタッフとして参加したり、いろんな関わり方ができるということです。

「はむすぽ」に関わるようになった経緯は？

きっかけの大本は自分でもよく経緯がわからないんですが、会社の組合の仕事で忙しかったのが一段落ついたところに、子どもが通う学校のPTAの役員をしたりしまして、そのあたりから地域のどなたかに目をつけられたのじゃないかと、体育指導委員のメンバーになるようにとお声がかかり、「なんで私が？」と思いつつお引き受けて、1期2年のところをかれこれ8期16年にわたって羽村市のスポーツ振興のお手伝いをさせていただいています。

そんな活動をしている中で、平成12年『総合型地域スポーツクラブ』の構想が出てきて、その実現に向けていろいろ勉強、検討を重ね、去年の6月には、公募市民も含めて47名の有志による設立準備委員会が発足して、いよいよ今年6月に「はむすぽ」始動！というところまで来たわけです。

チャンピオンスポーツだけがスポーツじゃない
スポーツはどうも苦手な、体育会系のノリにはついていけない、という人も世の中にはたくさんいると思います。確かに競技スポーツは勝ち負けの世界で

すから、記録に挑戦したり勝利を勝ち取るために体を鍛え、技を磨きます。

でも、そういうチャンピオンスポーツ以外にも、純粋に体を動かし、汗をかく楽しさというのがありますよね。ウォーキング、水泳、体操、ダンス、スキー、ボウリング、自分が楽しいと思える形で体を動かす機会を生活の中に持つこと。それが生涯スポーツの考え方です。

スポーツは世界共通のコミュニケーションツールでもありまして、スポーツを通じて仲間ができていく。「はむすぽ」がそんなきっかけになるといいなと思っています。

地域住民自らが主体となって運営する意義とは？

実際にスタートしてみると、いろいろ大変なことも出てくるでしょうが、自分たちでアイデアを出し、企画運営していくことができるという面白さがありますね。「はむすぽ」は行政からの補助金なしの独立採算で運営していく形ですから、どうやったらうまくいくだろうか？準備委員会の人々が知恵を絞って考えるわけです。

『地域スポーツクラブ』ならではの特色とかメリットって何だろう？ 町内会、PTA、商工会、いろんな人たちと連携して、地域に住む人たちの顔が見えてくるような活動をしていく。親子で、家族で参加できて楽しめるプログラムを作っていく。社員のメタボ対策を具体的に考えなきゃいけなくなっって頭を痛めている企業にメニューを提示して事業委託を持ちかけるといのはどうだろう。さらには「はむすぽ」の会員証を提示することで地域のお店で割引サービスができるような仕組み

はできないか、とか。

あと、スポーツそのもののプログラム以外に教育活動もしていきたいなと、個人的に思っているためである企画がありまして、その名も「部活マネジャー養成講座」。

中学や高校の部活動に、選手として表舞台で活躍はしないけれども縁の下での力持ち的な存在としてマネジャーについていますよね。何となく先輩の見よう見まねで小間使い的な仕事を引き受けていることが多いその子たちを集めて、ちゃんとした講師を呼んで、マッサージやテーピングなどのきちんとした技術から、記録の取り方やマネジメントの知識を教えるんです。選手じゃなくてもチームの中で大切な存在として自信を持っていられる人材に育てたい。マネジメントって大事な仕事ですからね。部活を卒業して競技の世界を離れてからも、きっと社会で役立つスキルになるし、その講座で学んだ子たちがまた次の世代のマネジャーを育てる側に回って、講師になって循環していく。

こういうことって、民間のスポーツクラブではたぶん出てこない発想だし、他所でもまだ聞いたことがないんですけど、いいと思いませんか？

お膳立てされたメニューに参加するだけではなくて、たとえばこんな「あったらいいな」を仲間と一緒に実現させてみる。夢を形にしていける。その可能性があるというのはいかに面白いのですよ。

地域で見つける『自分の居場所』
「はむすぽ」の立ち上げに向けて、いろいろな研修で話を聞く機会があるのですが、先行して取り組んでいるところで、こんな話を聞きました。

小さなお子さんがいるお母さんで、最初は子どもの付き添いみたいな形で来ていた人が、運営スタッフとしても参加しないかと声をかけられ、プログラムを考えたり、人を集めたりするお手伝いから始めて、今ではクラブマネージャーになつていて。普通の主婦の方ですが、彼女は地域での自分の居場所を見つけたと言っていて、とてもいきいき活動している。

私たちもそうですし、おそらくゆとろぎの市民の会の皆さんも同じ思いを持っていると思います。私がこのところずっと休日返上、平日の夜間にも会議や研修で予定がいっぱいな生活を続けていますと言うと、なんでそんなに一生懸命やれるのか不思議に思う方もいるかもしれないが、結局のところ、世のため人のためというよりも、自分が手応えを持つて活動できる楽しさや、そこが自分の居場所だと思える実感があるからです。

だから今、私の趣味は「はむすぽ」です。地域でちゃんと根付いて大きく育っていけるように、応援してください。

※「はむすぽ」について詳しく知りたい方は、設立準備委員会 ☎042-519-5712 またはスポーツセンター ☎042-555-0033 へおたずねください。





コー・ガブリエル・カメダさん



江尻南美さん

江尻南美さんのピアノとドイツ在住の
コー・G・カメダさんのヴァイオリンによる

ゆとろぎ

ヒタココンサート

6月28日(土) 午後2時開演

ゆとろぎ大ホール

入場料 大人1500円

小学生・大学生500円

(全席自由)

羽村市の皆さま

美しい羽村の堰の桜、そして、それに続く清々しい新緑の季節を、ここドイツ・フランクフルトから懐かしく思い出しております。

この夏には、日本とドイツ人の両親を持ち、国際的な活動をしているヴァイオリニスト、コー・ガブリエル・カメダ君と共に、ゆとろぎの大ホールで演奏させていただけることになりましたことを、大変に嬉しく思っております。2006年のクリスマスコンサート以来、約1年半ぶりに、再び羽村のホールにて皆さまにお会いでき、演奏を聴いていただけますことは、私にとって格別な想いがあります。

遠い地で日々生活している中で、自分は一体どこから来て、何者なのかということを考えさせられる機会が多いのですが、ドイツから羽村に帰ってきて多摩川の風景を眺めると、ここで自分が育ったということを確認します。そして、しっかりとそのことを心の中に留め、また旅立って行きます。

その羽村に、素敵なホールができ、そこで演奏をしたいと思えることを、幸せに思います。どうぞ、皆さまお誘い合わせにお出かけくださり、ピアノとヴァイオリンの音色を通して、我々の想いを受け取っていただければと思います。

今回は、様々なスタイルのヨーロッパのクラシック音楽や、日本のメロディーを織り交ぜたプログラムを組んでみました。じっくりと楽しんでいただければと思います。

それでは、6月に会場でお目にかかれまことを、心待ちにしております。

江尻南美

ゆとろぎ大ホールに ウィーンの音色が響きます

ヨーロッパを中心に活躍した本でも注目を集めているピアニスト、マリノ・フォルメンティさんと、あのウィーン・フィルハーモニー交響楽団の元コンサートマスターでヴァイオリニストのダニエル・ゲードさん、そして、現ウィーンフィルのチェリスト、ラファエル・フリーダーさんによるピアノ三重奏のゆとろぎ公演が確定しました。

この公演は、(財)青梅佐藤財団が主催し、羽村市・青梅市・羽村市教育委員会・青梅市教育委員会が後援、ゆとろぎ市民の会が協力して開催されます。

主催者である(財)青梅佐藤財団は、日本ケミカルコンデンサー株式会社(現日本ケミコン株式会社)を創業した故佐藤敏雄氏の遺志によって設立された財団です。「幼少より筆舌に尽くしがたい苦境の日々を過ごした設立者にとつて、青梅の人々や風物に囲まれて過ごした日々は、かけがえのないものでした。その自らの後半生を育んでくれ



撮影：Gyula Fodor

羽村チャリティーコンサート ウィーン HUGO WOLF TRIO WIEN フーゴ・ヴォルフ ピアノ三重奏団

客演：山寺明子(ヴァイオリン)

10月7日(火) 開場：17:30 / 開演 18:00

ゆとろぎ大ホール

入場料：一般・学生とも 2000円(全席指定)

主催：(財)青梅佐藤財団

後援：羽村市・青梅市・羽村市教育委員会・青梅市教育委員会

協力：ゆとろぎ協働事業運営市民の会

<お詫びと訂正> 4月15日発行の『ゆとろぎイベント・ガイド』裏面に掲載した「ウィーン・フーゴ・ヴォルフピアノ三重奏団」の記述に「全席自由」とありますが、正しくは「全席指定」です。お詫びして訂正します。

ウィーンから メッセージが

同合奏団は10月から11月初旬まで初の日本公演を行う予定で、日本公演開催にあたって、マリノ・フォルメンティさんからメッセージが届いています。

た青梅の自然、そして人々への感謝の心が、青梅の未来を担う青少年たちを支えたいという思いに結実し、青梅佐藤財団が設立されたのです」と財団のホームページに設立の趣旨が記されています。「質の高い芸術」を身近に鑑賞するコンサートや先端科学をわかりやすく学ぶ講演会、体験教室などを開催し、青梅市の文化発展に大きく貢献しています。

「私たちはこのトリオの名前を、私たち全員が心から愛してやまないウィーン出身の作曲家フーゴ・ヴォルフから採りました。彼の生涯はシューベルトのような多難なものでしたが、断固とした強さを持った作曲家で、常に人生における厳しさを芸術の域に至るまでに追求してきた真の芸術家なのです。彼の人生や音楽に対する情熱が、我々と我らの新たなトリオに対する励みとなれどと思っています。この新生ウィーン・フーゴ・ヴォルフ三重奏団から多くの素晴らしいものが生まれることを期待しています」

2007年に結成されたばかりの新生三重奏団の音色にご期待ください。入場券は5月1日からゆとろぎ受付で販売を開始します。次号では、ゆとろぎ大ホールでの演奏プログラムを基にピアノ三重奏の「聴きどころ」などを紹介します。

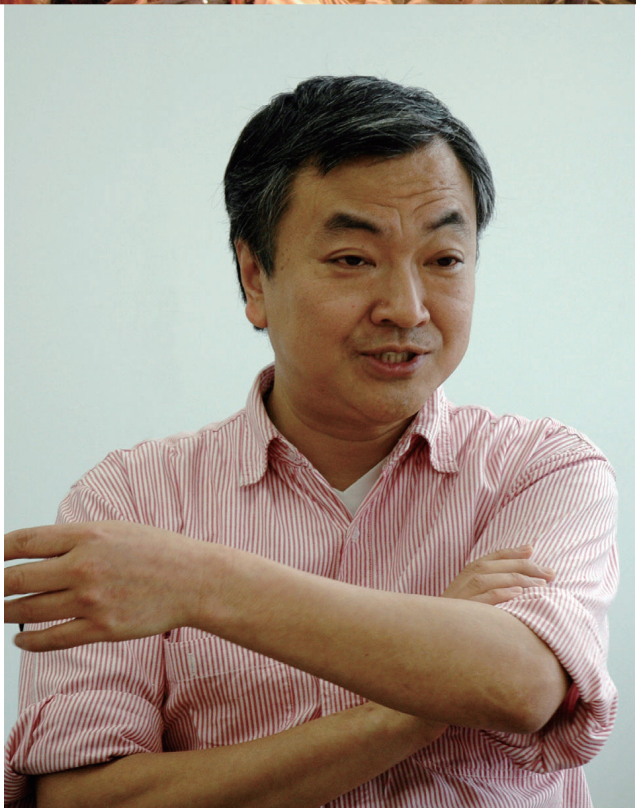
特集

06年9月の初寄席以来、「羽村ゆとりぎ寄席」は回を重ねるごとに千客万来の大盛況。最近は前売り券が完売するほどの人気ぶり。これまで9回の高座にのぼった芸人さんが延べ26人、観客は今年中には2,000人を突破する勢いに、噺家さんの間でも「ゆとりぎ寄席」はちょっとした評判だとか。
(取材・日下田まや/写真・平田栄一)



羽村ゆとりぎ寄席

お笑い界の
お笑い界の
お笑い界の



天明秀一さん 本職は病院に務めるサラリーマン。ゆとりぎ市民の会に参加するまでは寄席に行ったことはなかったが、持ち前のチャレンジ精神で噺家さんとのつながりを開拓。携帯電話のアドレス帳には芸人さんの名前がびっしり登録されている。1957年、横浜生まれ。妻と社会人・高校生の娘2人の4人家族。

3月26日(水)、ゆとりぎ小ホールで『ゝ五会(てんごかい)』という一風変わった名前の催しが行われた。
『ゝ五会』とは、主に二つ目で、これから力をつけていくであろうと目される噺家さんを招いての、いわゆる「勉強会」である。その記念すべき第一回は、柳家ほたるさんが落語三席で会場を沸かせた。
噺家は落語のプロ。ゆえに高座でトチるのはご法度なのだが、『ゝ五会』は勉強会である。そこはそれ、まだ半人前の噺家さんが経験を積む勉強会ということで、トチつてもご愛嬌。噺を聴く方も肩肘張らずに聴いた。ほたるさんの噺のうまさはこのからとして、熱演の姿に応援の拍手を送った。

「ゆとりぎ寄席」はゆとりぎ市民の会(芸術鑑賞部会)が企画運営を行っている。回を重ねるごとに前売り券が売り切れてしまふほどの人気である。その人気を支えているのは、企画を立て、チラシやポスターを準備する芸術鑑賞部会のメンバーである。その中心的役割をボランティアで担っている天明秀一(てんめい・しゅういち)氏にインタビューした。

仕掛人

ゆとりぎ お仕事は落語界に関係があった?

天明 まったく関係ないんです。昔、公民館で「羽村寄席」というのをやってまして、それはよく見に行っていました。一昨年、市民の会の芸術鑑賞部会に入ったら、落語を担当してくれということ。落語は好きです。最初はどこにコンタクトすればいいのか分からない。羽村寄席の資料を探したんですが、残ってない。どうしようか。インターネットで落語協会を調べて、上野鈴本演芸場で早朝寄席というのを見に行つて、たまたま出演していた三遊亭きん歌さん、柳家右太衛門さんを気に入って、こういうもので、こういう企画を考えているので、よろしく、つて言つて電話番号を聞いた。そこからです。

ゆとりぎ 自分で足を運んで、声をかけた。

天明 そう、それがスタートですね。そのころ、八王子のふれあい財団が主催するオーケスト

ラ公演の手伝いをやらせてもらった。そのふれあい財団から「八王子駅前寄席」の須加さんという方を紹介してもらって、押しかけスタッフとして足を運んだ。そのころ、いちばん問題だったのは、出演料の相場がわからなかったこと。駅前寄席を何回かお手伝いさせてもらっている中で目安がいたので、お二人に出演交渉をして、実現したのが一昨年の9月だった。2月に企画に加わって、7月にお二人にオーダーして、8月の初めに池袋演芸場に行つて相談して、第1回が9月なんです。

ねにもわからないまま、ストリートにぶつけて、「これから寄席をつくっていきたい」と。最初は「勉強会」という企画書を書いたんです。テレビに出ていないので、知られていない噺家がたくさんいる。そういう人たちと「作つていこう」と。だから、選ぶ基準も「いま噺がうまいか」だけじゃなくて、「いっしょに寄席をつくつてもらう、歴史をつくつてもらおう」という気持ちのある人を選んできました。

ゆとりぎ 噺家さんといっしょにゆとりぎ寄席をつくり、「勉



柳家ほたるさん（二つ目）を最初の出演者に招いた「ゝ五会」は真打ち前の若手の勉強会として開催。若手イコール「まだ半人前」なので「0.5」、つまり「てんこ」という洒落。本寄席では許されない“トチリ”も暖かく見守ってあげてください。将来は大真打ち、名人となるかもしれません。

強の場」にもしてもらおうと？
 天明 芸人さんは、人前で演じないとうまくならないんですよ。自分の家で一〇〇回やるよりはお客さんの前で一回やる方がいい、って言いますね。
 ゆとろぎ 仕掛人として大変なことは？
 天明 毎回やるたびに胃が痛くなって、気持ち悪くなって、吐くとか（笑）。いちばんはお客さんがどれくらい入るか、ですね。最近は前売りである程度売れるようになったので、それほどはキリキリしなくなりましたけど。

算が認められたんで、出演者のバランスとか季節感とか、開催日とかを勘案して組めるようになったんです。ですから、出演者が決まったら報告するだけでよくなったので、すごく流れがよくなりましたね。
 それから、芸人さんに気持ちよくやってもらうことをいちばんに考えてます。気持ちよく演じてもらって、「この会にまた来たいな、演じたいな」と思ってもらえる、仕事をもらってよかったじゃなくて、それ以上のものがあるような場所にしたいと思っています。

前回の右太楼さんが終演後に「今日のお客さんはいいところで笑ってくれて、いい形に終わった」と言っていました。私は、芸人さんとお客さんの仲立ちだと思っています。ライブっていうのは、芸人さんがノルからお客さんもノルし、お客さんがノルから芸人さんもノル、そういう関係なんですよ。一体感。ゆとろぎ 芸人さんの中に親しい関係の人はできましたか？
 天明 まだ2年目、3年目です。まだ全然ないですよ。私にとつて「芸人」というのは特別な存在なんです。親しくなりたいと思います。自分のためだけでなく、ゆとろぎ寄席のためにいろいろ相談のできる芸人さんを作りたいですね。

常連さん

今年中には観客動員数が延べ二〇〇〇人に達しようかというゆとろぎ寄席。常連さんもできてます。寄席の雰囲気が高まりつつある。常連さんの一人、津軽三味線の岡田修さんと奥様のさとみさん、落語に造詣の深い平沢和憲さんに聞いた。

ゆとろぎ 津軽三味線の演奏家、岡田修さんと落語とのご縁というのは？
 岡田 以前から落語が好きだったわけではないんですね。出会いは志の輔師匠なんです。15年くらい前に懇意にしてもらってからですね。招待してもらったことがあって、高座の袖で聞かせていただいたとき、イメージを膨らませるといのか、落語にはまってしまひましてね。面白いんですよ。

三味線はことばではなくて音ですが、お客さんは音色を聴いて、それぞれにイメージを広げるところは共通しているんじゃないですか。

さとみ 間合いとかね。岡田 そう、間合いもね。落語の面白さって、「間」ですよ。だから、勉強になるところがありますね。
 平沢 志の輔さんのことばに「なにもないけど、なんでもある」というのがありますね。扇子と手ぬぐいで聴く人の頭の中に世界を作っていく。シンプルだけど、なんでもできる世界。三味線もそれに近いものがあるのでは？

岡田 共通する部分があるかもしれませんね。
 ゆとろぎ 演奏者として、ゆとろぎの観客はどうですか？
 岡田 プロデューサー的に情熱をもつて「乗っけて」、そこでのいい演奏をして「はい、おしまい」じゃなくて、次につなげていこうという情熱っていうのかな、目に見えないなかで舞台にいいものに乗っけてあげたい、こつちもそれに応えたい。ことばじゃなく、気持ちの中でそういうものをつなげる空間だったんだと、思います。

平沢 舞台って、そうやってお互いがつくりあげるものなんです。だからこそ、お客さんもテレビとは違う空気を通して目に見えない何かを感じて、「生っていいな」と。さとみ 楽しかったこと、面白かったことって人に教えたいじゃないですか？
 ゆとろぎ 寄席に初めて来たとき、知らない落語家さんだったので、「面白いのか、どうなのか」半信半疑だったのがすごく面白くって、テレビに出ていない人たちの中にもものすごい実力を持った人がいるんだと。もつとたくさんの人たちに、落語は「笑点」だけじゃないのよ、って知ってほしいですね。ちょっと宣伝不足かも。

平沢 ゆとろぎの小ホールは、人数的には落語を聞くのにちょうどいいんです。一〇〇人から三〇〇人くらいがいちばんいいといわれています。あまり大きな会場では熱気のようなものが分散してしまうんですね。隣の人と「面白かったね」って言えるくらいがいいんですよ。高座からはお客さんの表情が見える、客席からは芸人さんの顔が見えるというのがいいですね。それから、料金が安いんですよ。他の寄席だと、2500円とか2700円です。



岡田修さん



岡田さとみさん



平沢和憲さん

初夏のゆとろぎ イベント・ガイド

あつと言う間に桜前線は北上し、ゆとろぎの周辺は新緑に彩られています。新年度の始まりとともに、ゆとろぎの内外で春を彩るイベントが開催され、羽村の街全体がなんとなくいきいきと感じられます。ゆとろぎもさまざまなイベントが目白押し。5月以降のイベントをご紹介します。(5月〜7月に開催予定のゆとろぎの主催事業は左頁の一覧表参照)

ゆとろぎアカデミア

4月から新年度の講座がスタートしています。美術系の講座はいずれも受講受付を終了し、目下、熱心に制作に取り組んでいます。今年度の新講座では、いま人気のデジタル写真関連の2講座が行われています。が、予想を上回るご応募をいただき、2度目の開催を検討しています。

■自分史書き方入門講座

文芸部門では、6月12日(木)から『自分史書き方入門講座』が予定されています。「定年退職を迎えて時間の余裕もできたし、自分が生きてきたこれまでの人生を振り返って、記録に残したい」という中高年の方を対象に、文章を気軽に書く「コッソ」を習得していただくというの狙いです。パソコンをお持ちの方には特にお勧めの講座です。受講料は全5回で5000円。募集定員は先着15名。応募締切り5月29日(木)。受講希望者は、往復はがきに「講座名・受講者の氏名・住所・年齢・電話番号」を明記して郵送またはゆとろぎへご持参ください。

ゆとろぎギャラリー

展示室では、4月9日(水)から20日(日)まで上海出身の水墨画家、白浪さんと弟子の荻島初美さんの「春爛漫水墨画展」が開催され、同23日(水)から5月5日(月・祝)まで「たるいしまこ絵本原画展」が羽村市図書館との協働で開かれています。それぞれにギャラリートークも行われて、にぎやかな新年度の幕が開けました。

■岸本和子油絵展

5月29日(木)から6月8日(日)まで、市内在住の洋画家、岸本和子さんの作品を一堂に集めた「岸本和子油絵展」が予定され、準備が進んでいます。女性をモデルにした清かな油絵をお楽しみください。

■アートin羽村展Ⅷ

7月1日(火)から、多摩地区で活躍している美術家の方々による「アートinはむら展Ⅷ」が始まります。ゆとろぎの館内、屋外を展示空間にして、絵画はもとより彫刻・立体作品も展示します。同展は今年8回目を迎え、西多摩を代表するイベントとして評価されています。現代

アートを身近に鑑賞できるまたとない機会です。

■西多摩百景写真展Ⅲ

7月30日(水)から8月10日(日)まで、これもまた恒例となった『西多摩百景写真展』が開催されます。同展は、昨年末に応募を締め切った「西多摩再発見フォトコンテスト」の入選作品を展示するもので、第6回を迎えた今年は、応募総数550点、入選123点の中から羽村市の鈴木久雄さんの作品



『燃え盛る』が最優秀賞(日本カメラ社賞)を受賞しました。年々応募点数が増え、作品のレベルも高まっています。

ゆとろぎホール

3月から5月の大ホール・小ホールは、市内小中学校の音楽発表会や一般ピアノ教室などのさまざまな発表会・コンサートなどで週末はほぼ満杯の状況です。ゆとろぎの施設の中で大ホール・小ホールともに群を抜く利用率で、ゆとろぎの主催事業でさえ日程確保に苦労するほどの人気施設です。

◆ゆとろぎ寄席

5月からほぼ毎月開演で関係者は汗を流しています。5月は、節目の『第10回記念大会』を18日(日)に開催。ゆとろぎ寄席のこけらを落とした三遊亭きん歌さん他3人の芸人さんがにぎやかに登場。6月14日(土)の第11回は、春風亭一之輔さんと林家たけ平さんを招いてじっくり囃を楽しむ「二人会」です。どちらも面白いですよ。

◆江尻南美さんのコンサート

6月28日(土)、羽村市出身でドイツ在住のピアノリスト、江尻南美さんが久々に里帰りコンサートを開いてくれます。今回は、江尻さんと同じドイツ在住でヨーロッパを中心に活躍中のヴァイオリニスト、コー・ガブリエル・カメダさんとのピアノ・デュオによる『ゆとろぎセタコンサート』です。どんな演奏を聴かせていただけるのか楽しみです。入場券はゆとろぎ受付で販売中です(本誌3頁参照)。

◆爆笑コント だるま食堂

7月の小ホールは爆笑プロダクションの2連チャンです。12日(土)は第12回の「ゆとろぎ寄席」。18日(金)は、女性コントグループ「だるま食堂」の公演です。最近、その笑いにますます磨きがかかったようです。どんな笑いを引き起こしてくれるのか期待が膨らみます。入場券は、「ゆとろぎ寄席」が5月20日(火)から、「だるま食堂」は5月18日(日)から、ゆとろぎで前売り券の販売を開始。それぞれ翌日からスポーツセンター・マルフジ他でも販売します。

特別イベントのご案内

09年3月特別公演

重要無形文化財

人形浄瑠璃文楽

06年の能楽、08年の雅楽に続いて、古典芸能を楽しむ企画の第3弾として、「人形浄瑠璃文楽」を2009年3月15日(日)に開催します。

一般的には「文楽」の名前で通っている「人形浄瑠璃文楽」は2003年に世界無形遺産に登録された、日本が世界に誇る古典芸能の一つです。操り人形と浄

瑠璃が合体して完成された舞台芸術で、江戸時代には庶民の娯楽として常設の劇場ができるほどの人気で、大阪を中心に栄えたといわれています。

今回、(財)文楽協会のご協力でゆとろぎ公演が実現することになりました。詳細は今後、随時発表しますので、ご期待ください。



5月～7月のイベント日程

※本欄には、羽村市・羽村市教育委員会・ゆとろぎ市民の会・羽村市文化協会が主催・共催・後援・協力する事業のみを掲載しています。
※各月の詳しいイベント日程は「ゆとろぎイベントガイド」（毎月 15 日発行）をご参照ください。

	5月		6月		7月
大ホール			羽村マジッククラブ 第 6 回発表会 (問合せ☎ 042-558-6844 鶴岡)	6/15 (日) 13：00 開場 入場無料	
			江尻南美とコー・G・カメダさんの ゆとろぎ七夕コンサート (問合せ☎ 042-558-4194 江尻)	6/28 (土) 13：30 開場 大人 1500 円 小学生～大学生 500 円	
小ホール	子ども映画会	5/11 (日) 10：30～11：30 入場無料	子ども映画会 (会場は講座室 2 に変更)	6/8 (日) 10：30～11：30 入場無料	子ども映画会
					抱腹絶倒！女性コントグループ だるま食堂
	羽村ゆとろぎ寄席 第 10 回記念大会 ※当日券は前売り券が残った場合にのみ販売	5/18 (日) 14：30 開場 前売り 1000 円 当日 1200 円	羽村ゆとろぎ寄席 第 11 回 ※当日券は前売り券が残った場合にのみ販売	6/14 (土) 14：30 開場 前売り 1000 円 当日 1200 円	羽村ゆとろぎ寄席 第 12 回 ※当日券は前売り券が残った場合にのみ販売
ロビー	ゆとろぎサロン・コンサート 第 11 回 大正琴「琴和会」 (問合せ☎ 042-555-6980 市野)	5/17 (土) 12：30～13：00 入場無料	ゆとろぎサロン・コンサート 第 12 回 三味線「弥尾地会」 (問合せ☎ 042-555-6980 市野)	6/7 (土) 12：30～13：00 入場無料	(サロン・コンサートはお休み)
展示室 (祝日を除く月曜日休館)	第 3 回羽村市美術・工芸展 ＜絵画と写真の部＞ (問合せ☎ 042-579-1385 渡部)	5/14 (水) ～ 18 (日) 10：00～17：00 入場無料	第 3 回羽村市美術・工芸展 ＜陶芸の部＞ (問合せ☎ 042-579-1385 渡部)	6/18 (水) ～ 22 (日) 10：00～17：00 入場無料	第 3 回羽村市美術・工芸展 ＜水墨と日本画の部＞ (問合せ☎ 042-579-1385 渡部)
	岸本和子油絵展	5/29 (木) ～ 6/8 (日) 10：00～17：00 最終日は 15：00 閉場 入場無料			アート in はむら展 VIII
					西多摩百景写真展 III
講座室 2	パソコン教室	5/2・9・ 16・23 (金)	パソコン教室	6/6・13・ 20・27 (金) 10：00～12：00	パソコン教室
	写真処理のための パソコン操作入門 (第 2 回)	5/8 (木)	写真処理のための パソコン操作入門 (最終回)	6/7 (土)	
	デジタル写真の 基礎を学ぶ講座 (第 2 回)	5/17 (土)	デジタル写真の 基礎を学ぶ講座 (最終回)	6/14 (土)	
	「情報通信技術で変わる 暮らし」講座 (第 5 ・最終回)	5/7・14 (水) 19：00～20：30 受講料：1 回 500 円			
	文学からの歴史探索 (第 4 ・ 5 回)	5/14・28 (水)	文学からの歴史探索 (最終回)	6/11 (水)	
		NEW	「自分史」書き方入門講座 6/12～10/9(各月第 2 木曜日) 受講料：5000 円 (全 5 回)	第 1 回 6/12 (木) 19：00～20：30	「自分史」書き方入門講座 第 2 回 7/10 (木) 19：00～20：30
学習室 1	写経のすすめ (第 3 ・最終回)	5/6・20 (火)			
創作室 1	日本画初心者教室	5/1・15 (木)	日本画初心者教室	6/5・19 (木)	日本画初心者教室
	押し花アート初級教室	5/2・16 (金)	押し花アート初級教室	6/6・20 (金)	押し花アート初級教室
創作室 2	楽しいパステル画	5/6・20 (火)	楽しいパステル画	6/3・17 (火)	楽しいパステル画
	油絵初心者教室	5/14・28 (水)	油絵初心者教室	6/11・25 (水)	油絵初心者教室
創作室 3	陶芸中級者教室	5/10・24 (土)	陶芸中級者教室	6/7 (土)・8 (日)	陶芸中級者教室

※「問合せ」が記載されていないイベントに関するお問合せはゆとろぎで承ります。

※「開催時間」が掲載されていない講座・教室は受講の受付を終了しています。

※「パソコン教室」の 6 月、7 月分を受講希望の方は、往復はがきに「講座名・受講者氏名・住所・電話番号」を明記してゆとろぎへ郵送もしくは持参ください。いずれも応募の締切りは開催月の前月 15 日。

※「自分史書き方入門講座」を受講希望の方は、上記と同様の方法でお申し込みください。締切りは 5 月 29 日 (木)。

※「情報通信技術で変わる暮らし」は各回で受講可能です。受講希望の方はゆとろぎ受付へ講座開始日の前日までに☎でお申し込みください。

ゆとろぎ クラブ

市民の会で「ゆとろぎ友の会（仮称）」
を立ち上げます……登録をお願いします

ゆとろぎは、今年、開館3年目を迎えました。これまでの主催イベントにはたくさんの方々にご参加・ご鑑賞をいただき、毎回、アンケートを通して貴重なアドバイスを、ご提案、ご意見をいただきました。

そのアンケートを拝見すると、「イベントの開催情報が遅い」、あるいは「なかなか伝わってこない」、「もっと早く知りたい」、「いつ、なにが行われるのかいろいろ知りたい」などなど、ゆとろぎで開催されるイベントへの期待感にあふれたご意見、ご要望、ご指摘などが数多く寄せられています。

ゆとろぎでは、主催イベントの情報を毎月発行の「イベントガイド（旧月刊ゆとろぎ）」と季刊の「ゆとろぎ通信（旧季刊ゆとろぎ）」あるいは「広報はむら」などを通じてお伝えしているほか、羽村駅・小作駅の掲示板、市内38箇所の教育委員会掲示板などにポスターを掲示してご案内しています。そして、ゆとろぎのイベント情報をより早く、より確実に、そして、ダ

イレクトにお届けするために、市民の会でインターネットを活用した「ゆとろぎ友の会」を準備中です。この4月から、過去にアンケートにご回答をいただいた方々のうち、ゆとろぎから情報をお送りすることに同意をいただいた方々へ、市から「友の会登録」のご案内を差し上げています。

「ゆとろぎ友の会」は、会員の皆さんにゆとろぎの情報を素早くお伝えするだけでなく、皆さんからの声もダイレクトにお受けし、近い将来は会員同士でも自由に交流できるコミュニケーションサイトも検討しています。また、さまざまな会員特典もご提案できるよう知恵を絞っています。

「市民一人ひとりの生涯学習を支援する」ゆとろぎは市民の皆さんの手によって成長しています。「ゆとろぎ友の会」へのご登録をお待ちしています。登録ご希望の方はゆとろぎ市民の会事務局（☎042-570-0707）までどうぞ。

「ゆとろぎ友の会」は、会員の皆さんにゆとろぎの情報を素早くお伝えするだけでなく、皆さんからの声もダイレクトにお受けし、近い将来は会員同士でも自由に交流できるコミュニケーションサイトも検討しています。また、さまざまな会員特典もご提案できるよう知恵を絞っています。

ゆとろぎのコナモーレで

ちょっと“カフェ” してみませんか？

ゆとろぎ1階の正面入口（図書館側）のすぐ右手にある、カフェ・レストラン「コナモーレ」。全面ガラスの明るい店内とともに、花壇に面したウッドデッキでは、春先から初夏にかけて、ちょっとお洒落なオープンテラスの“カフェ”気分が味わえます。昨年は、プチギャラリーとして写真展とミニ・コンサートを店内で開催しました。

お店全体を取り仕切っているのは、イタリアンをベースにした創作料理を得意とするシェフの大通 拓さん（29）。料理人になったきっかけは、「人を喜ばせる仕事がしたかったから」だとか。ご自身も食べることが好きなので、料理の工夫には余念がありません。ちなみに、パーティーで出されたレバペーストのカナッペはなかなかの逸品でした。

この春からメニューも一新され、評判を呼んでいます。ティータイムに桜

の花びら付のチーズケーキや、2種類のロールケーキは好評。羽村市農産物直販所で人気の“加藤さんのシフォンケーキ”も毎日仕入れて販売しています。お土産に買い求めていく人も多いとか。

「ゆとろぎや図書館にみえて、ちょっと休憩したい…。そんな方々にも、カフェ的に使ってもらえる場所にしたいです」と語る大通さん。ぜひ一度立ち寄ってみてはいかがでしょうか。心のこもった料理が待っています。

同店では、ゆとろぎ館内で行われる講座や会議などへの飲み物のデリバリーのほか、店内貸し切りまたは地下1階のレセプションホールを借りてのパーティー・宴会のサービスも受けています。営業時間は午前11時から午後7時まで。詳細は同店へ気軽にお問合わせください。☎042-555-1680（取材・関根和美）



ゆとろぎや図書館に来たついでに、ちょっと立ち寄ってみてはいかがでしょうか。シェフの大通拓さんはじめ、明るい従業員の方々が迎えてくれます。

【編集室から】●新年度を迎えて、これまでの『月刊ゆとろぎ』、『季刊ゆとろぎ』を『ゆとろぎイベント・ガイド』『ゆとろぎ通信』と改めて全面的にリニューアルしました。明るく、軽やかに学習情報をお届けします。●ゆとろぎ市民の会では、いっしょに企画を考え、知恵を出し、汗を流してくださる仲間をいつでも募集しています。興味のある方は市民の会事務局までお申し出ください。

【担当者のひとり言】

●はあ、パソコンスキルのなさが身にしみる。少しずつでもできることが増えま（えくぼ）すように。

△これからは、外のカフェが気持ちいい季節ですね。私はコーヒーを飲みながらくつろいでいます。（関根）

■3人寄れば文殊の知恵のことわざで市民協働の事業に微力ながら尽くしたいと思っています。（長尾）

◇お客さんに楽しんでもらうためにどうするか。天明秀一さんのパワフルな話ぶりが印象的でした（ヒゲタ）

○「桃栗三年柿八年」。桃が栗か、はたまた柿か、ゆとろぎは。いずれにしても先が楽しみです。（ヒラタ）

◆市民の会運営の一角を担わせていただくことになりました。人に感動を与え、アートを提供していきたい。（ふくさ）

▽来てみませんかゆとろぎへ。観て聴いてやってみませんか、何かが見つかるゆとろぎで。（古澤）

▲夏休みには「子ども創作教室」を準備中。ゆとろぎは多数の方々に楽しんでもいただける講座づくりをめざします。（堀）

◎市内は元より市外の方々のご関心の強さを感じています。ゆとろぎをまだご存知ない人！お出かけください。（村山）

▼「ゆとろぎ」が多くの方々にとって身近で開かれた生涯学習の場になるよう、ハゲんでおります。（山本）

□「ゆとろぎ」は第二の玉川上水です。文化の水を羽村で受け止め、いきいきした流れを創ります。（横田）

ゆとろぎ通信

2008年5月1日改題発行（通巻九号）

Vol.1

発行 ■ 羽村市教育委員会
企画 ■ 羽村市生涯学習センターゆとろぎ
編集 ■ ゆとろぎ協働事業運営市民の会

〒205-0003
羽村市緑ヶ丘1-11-5

☎042(570)0707

FAX 042(570)6422

http://www.city.hamura.tokyo.jp

編集 ■ 江久保千英・関根和美・長尾晃・日

下田まや・平田栄一・福佐健二・古

澤義隆・堀茂子・村山利夫・山本豊・

横田轟

羽村市生涯学習センターゆとろぎ

写真 ■ 平田栄一・村山利夫

印刷 ■ (株) 東光社

〒114-0013

東京都北区東田端1-12-19

☎03(5880)6661



無断転載をお断りします。

Copyright ©2008 by YUTOROGI

All rights reserved.